

社 会 1 (501~509)

座長 一谷 彊・岩田 紀

501 Self-esteem の規定・機能要因の心理学的研究(Ⅰ)

502 Self-esteem の規定・機能要因の心理学的研究(Ⅱ)

九州大学 ①蘭 千 寿

〃 ②原 田 純 治

503 非行児および養護児についての社会的指標の因子分析的検討 京都教育大学 〇一 谷 彊

大阪中央児童相談所 津 田 浩 一

504 青少年の非行と家庭環境について(4)

深谷中学校 小久保 隆 福

505 高校生の喫煙に関する意識調査

宇都宮大学 〇長谷川 ひろみ

東ワシントン大学 岡 林 春 雄

506 看護職の継承過程に関する研究

大分医科大学 〇田 中 宏 二

広島大学 小 川 一 夫

507 コミュニティの大きさと希望する家族の大きさの差異と Environmental Concern

徳島大学 岩 田 紀

508 少年の家出原因についての考察

岡山商科大学 中 津 実 円

509 (発表取消)

501, 502 中原(茨城大)より独立変数の認知された養育行動は従属変数である Self-esteem の高さによって差があると思われるので両変数が関連しているのではないかと疑問が提示された。さらに養育行動に関する親の回答と認知された養育行動の相関をなぜ問題にしたかが問われた。発表者は前者の検討はなされていないが養育行動に関する両データを用いることによって補完できると回答した。

503 蘭は両年のデータを合わせた分析から因子ごとに両年の変化を見てはと提案した。発表者はそのような分析も両年のデータの別々の分析とほぼ同じ因子パターンを生じたと回答した。遠藤(鹿児島女子大)は映画館数、パチンコ店数、学校(公・私立)および教師の性比についても検討してほしいと発言し、発表者は謝意を表しスーパーと非行率の関連を示すデータを得ていると回答した。

504 南條(岡山商大)は非行発生の中心地が現在どこにあるかについて発言し、母親がこどもの非行を認めないことについて無責任というより非行を認めたくないとい

いう自我防衛機制によるとコメントした。発表者はそれを肯定した。北野(金沢美術工芸大)は非行の原因として学校特に中学校の教育内容にも問題があるのではないかと指摘した。

505 南條は喫煙の予防に関して指導的な地位の生徒に喫煙の害に関する知識を与えそれを他の生徒に及ぼす方法の有効性を示唆し、発表者はそれに賛意を表し中学生の頃から正しい知識を与える必要性を強調した。南條はタバコの宣伝を放置できないと述べ発表者は知識を地域や家庭に広げるべきであると主張した。

506 小久保より看護職継承志向性の測定に用いた SD 尺度に関する質問があり、発表者は Crites (1962) を参考にした 9 項目の 7 段階評定尺度が用いられたと回答した。一谷から他の職業についても同様な研究の予定があるかおよび職業への同一視について一般化の意図があるかについて質問があった。発表者からはそれぞれそのような予定があることそして娘の教職継承過程において親への同一視の影響があることを見出しているとの回答があった。

507 長谷川はこどもを持ちたいという願望は男性よりも女性の方が強いという考察と希望するこどもの数によるグルーピングの結果とは矛盾するのではないかと述べたが、発表者からは考察における記述は一般論としてでありグルーピングの結果は大部分の被験者が教育学部生であるという特殊性を反映しているとの回答があった。原岡(佐賀大)から仮説の背景が明確でないとの指摘とコミュニティの意味に関する質問があった。前者に関してスペースの関係で仮説だけが示されたと答えられその背景が説明された。後者に関しては行政区画の単なる人口規模であると回答された。蘭が独立変数として希望するこどもの数を用いた点に疑問を示したが、出生行動の指標は 1 つではなくどれも使用可能であり希望するこどもの数と実際の出生数の相関が高いことが示唆されており問題はないと回答された。原岡は本発表の場合には前者の指標の方がよいであろうと述べた。

508 小久保は家出しても食うに困らないという意味を質したが、仕事が容易に得られることが家出の一因ではないかと回答された。南條は不純異性交遊の意味について質問したが、不特定の男女間の興味本意の性交であるとの回答がなされた。

最後に、非行に関して全般的なコメントが遠藤に求められた。

(岩田 紀)